

	見	て	見	ぬ	振	り	を	し	施	設	内	で	の	集	団	生	活	に	馴	
染	む	よ	う	に	意	思	誘	導	支	援	を	行	う	事	、	福	祉	施	設	
と	は	利	用	者	当	人	の	た	め	で	な	く	、	当	人	家	族	の	生	
活	を	維	持	す	る	た	め	の	受	け	入	れ	施	設	で	あ	る	。		
	施	設	生	活	を	受	け	入	れ	過	ご	さ	れ	る	方	に	対	し	、	
狭	い	枠	組	み	か	ら	も	楽	し	い	環	境	を	ど	う	提	供	す	る	
か	を	大	き	な	目	標	と	す	る	が	、	当	人	か	ら	の	「	意	思	
決	定	」	支	援	は	絶	対	に	無	理	で	あ	る	。						
	福	祉	施	設	職	員	と	し	必	要	な	の	は	、	利	用	者	の	意	
思	決	定	に	対	し	て	の	支	援	で	は	な	く	、	低	コ	ス	ト	に	
否	定	を	行	わ	ず	誘	導	す	る	技	術	で	あ	る	。	100%	意	思		
を	支	援	す	る	事	は	あ	り	え	な	い	。	当	人	へ	否	定	や	非	
難	で	は	な	く	、	決	め	ら	れ	た	枠	で	過	ご	し	て	も	ら	う	
た	め	誘	導	す	る	必	要	が	あ	る	。	利	用	者	を	家	族	と	し	
て	考	え	る	と	い	う	福	祉	の	理	念	に	基	づ	き	考	え	る	も	
	職	員	も	家	族	に	対	し	考	え	方	が	多	種	多	様	で	あ	る	。
	褒	め	て	自	惚	れ	る	、	ま	た	、	下	手	に	出	る	な	ら	ば	
上	か	ら	目	線	か	ら	来	る	利	用	者	に	対	し	て	の	対	策	を	
知	り	た	く	思	う	。	そ	し	て	職	員	へ	の	依	存	度	が	高	い	
利	用	者	は	福	祉	と	無	縁	な	場	に	出	て	行	き	戻	っ	て	も	

受講番号: ●●●●●●
氏名: ●●●●

レポート 第 2 回
ページ: 1/3

課題番号: ①

フッター部分に入力をしてください。

受講番号 (6桁の番号を入力)

レポート提出回

課題番号

氏名

※ページは自動的に振られます



らう必要がある。変わらうとしなければ失敗
もなく成長は絶対に無く、成長とは何かと問
われるならば、施設内で他利用者と協調し過
ごしてもらい、職員に対するコストが少ない
事である。マニュアルの理想である家族とし
て接するならば、お客様である二面性とサー
ビスの境界線があり頭痛と怒り、第三者職員
に対しての許容出来ない事、自身の信用と行
動を見失う。そのためにも、過去の記録と先
人の方々が残した支援目標としてPDCAがある
ため、支援対象者当人をないがしろにしない、
無難なサービスを過去の事例から提供するこ
とが必要。記録を文字として抽象化し残すこ
とは大事ではあるが、監視カメラやボイスレ
コーダーの必要性を考える。利用者個人の発
言が確実性を伴わないためである。ベテラン
の職員の記録であれば表情や行動から体調を
推察しているが、信用社会における福祉新参
者としては第三者からの見返し出来る機能性
を求める。

